

・海外との連携

昨年度と同様、新型コロナウイルスの影響を受け、直接的な交流を行うことはできなかったものの、オンラインを通じてオーストラリアにある姉妹校の Sacred Heart College (SHC) との交流を行った。今年度の交流会は5月～8月にかけて計3回行い、引き続き Zoom の Breakout Room という機能を活かし、少人数で双方向のやりとりができる環境を整備した。国際塾生と SHC の中高合わせて37名の日本語学習選択者と活発に交流を行った。自己紹介や互いの国・学校生活についての理解を深めるところから、それぞれが取り組む課題研究の内容に関する情報交換など、話題は多岐にわたり、英語と日本語を交えて有意義な時間を過ごすことができた。事後に行ったアンケートの結果によると、「非常によかった」と回答した生徒の割合は6割以上であった。記述式回答において、「外国でも共通のものがあるということを改めて学んだ」、「住んでいる国は違うのに同じことをしているのが新鮮だった」、「相手とのコミュニケーションをとるのが楽しかった」、という感想を持つ生徒もいた。

<令和4年度 SHC との交流会の日程と概要>

実施回	日程	内容
1	5月20日(金)	本校生徒による自己紹介(英語)・SHC 生徒による自己紹介(日本語) 日常会話(相手を知る Q&A)(英語)
2	7月29日(金)	学校生活・異文化についてディスカッション (英語・日本語)
3	8月23日(火)	本校生徒による自分の課題研究テーマの説明・質疑応答(英語) SHC 生徒による日本文化研究の説明・質疑応答(日本語)

○海外研修代替プログラム(直島研修)

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、毎年行っていた海外研修を中止した。その代替企画として、令和5年3月8日(水)から3月10日(金)までの3日間にわたり、現代アートに溢れたベネッセアートサイト直島にて、研修を行う。参加生徒は1・2年生より募集し、SOZAN 国際塾生を含む20名が参加。

■目的

(1) 参加生徒が現代アートを体験し、そこで体験するアートの意味や役割を考えるとともに創造力と主体的な活動、課題発見・解決能力を実践する。

(2) フィールドワークを通して他者と協働する力を養う。

生徒たちがフィールドワークに行き学んだこと・感じたことをもとに、直島に相応しいアート作品を作成し、英語で発表する。

■プログラム内容について

令和5年1月19日にベネッセアートサイト直島の広報部に所属しておられるステンランド由加里さんを講師に迎え、事前学習Ⅰを行った。英語で直島に関する講義をいただき、直島が辿ってきた歴史、アート作品、島民の様子、ベネッセとの連携の在り方について学んだ。講義後には質疑応答の時間をいただき、多くの生徒が英語で質疑を行った。直島の特徴とアートプロジェクトの概要を知り、社会的なアートの役割、アートが何を伝えようとしているかを考え、理解し、各自がどういう作品を作成すれば直島に相応しく、社会的に有意義になるのかを想起させる機会となった。

事前学習Ⅱでは、直島に日帰りで行き、「ベネッセハウスミュージアム」を実際に訪れ、アートを鑑賞する過程でそのアート作品が作成された背景・経緯・伝えようとしているメッセージを考察した。その後は、各個人が選んだアート作品について感じ取ったことをプレゼンし、その後泊を伴う最終研修に向けての班を決定し、宿泊研修に向けた課題を設定した。実際の宿泊研修では、3月8日～3月10日まで課題解決に向けたフィールドワーク等の班活動を行い、9日の夕方から10日の午前にかけて各班が発表準備をする予定である。また事前研修を含め、研修期間中の使用言語は英語を基本とし、9日より各班にネイティブのコーディネーターが1名ずつ付くことになっている。コーディネーターと生徒達が英語でコミュニケーションをとり、助言をもらいながら、最終的に班ごとにアートをテーマにプレゼンし、発表する予定である。なお、発表の際には生徒による質疑応答及び、ネイティブコーディネーターによる講評とまとめを行う計画である。

■事前研修

1月19日 事前学習Ⅰ

1月21日 事前学習Ⅱ

■事後研修

- ① 直島研修での助言を参考に研究内容を深化させ、姉妹校（SHC）の教員・生徒に対し研究成果を発表（英語）する。
- ② 本校の教員・生徒に対し研究成果を英語で発表する。

■ 宿泊研修代替プログラムの日程

	月日 (曜)	地名	時刻	予定	宿泊
1	3月8日 (水)	宇野港発 宮浦の港着	09:22 09:44	ベネッセアートサイト直島にてフィールドワーク	つつじ荘バオ (生徒)
2	3月9日 (木)	ベネッセアートサイト直島		ベネッセアートサイト直島にてフィールドワーク・発表準備	ホテル
3	3月10日 (金)	宮浦の港発 宇野港着	16:02 16:22	ベネッセアートサイト直島にて発表	

○サステナブルブランド Student Ambassador 全国大会

10月に岡大で行われた中国ブロック大会に参加し、その後の論文審査を経て、全国111エントリーの中から全国大会代表の15校に選ばれ、2月14日～15日にかけて東京国際フォーラムで行われた「サステナブル・ブランド国際会議2023 Student Ambassador 東京・丸の内」に国際塾1年生の3人が出席した。

本校がエントリーした論文のタイトルは「Re-Take」。真備で特産の竹を使って地産地消の家具作りをしている「テオリ」様に、ドアノブを楽に開けられる「自助具」を竹で作るというプランを提案したところ、竹でサンプル品を作って下さり、それを手に東京へ。

基本的に企業向けのフォーラムであり、そこに前衛的な取り組みをしている高校生を招待してもらえると位置づけて、各分科会は今現在学校で取り組んでいることよりもかなり進んだ企業向けの話ではあったが、「持続可能」という取り組みを掲げ、2日間で延べ5,500人が参加する大きな大会に出席できたことは大変光栄であった。

2日間の研修の最後には企業を前に自分たちの提案を5分間でプレゼンする機会があった。上位3校には入れなかったが、慣れない大舞台であったにも関わらず、堂々とした発表を行った。



○岡山大学留学生との交流会

昨年度に引き続き、岡山大学の留学生との交流会をオンラインにて実施した。今年度は、岡山大学の留学生の3名と年間10回にわたり交流を行った。留学生の出身国はトリニダード・トバゴ、ベトナム、ミャンマーである。初回は各留学生から英語で自己紹介と自国文化等に関する紹介がなされた。生徒たちは留学生のプレゼンテーションに対して英語で質問し、当該国とその文化について学びを深め、視野を広げることができた。第2回以降は、ZoomのBreakout Roomの機能を活かし、3グループに分けて少人数でグループごとに少なくとも20分間の交流を行った。生徒は自身が取り組んでいる課題研究の内容について英語で留学生に説明し、留学生からの指導・助言を受けた。実際に大学で研究を行っている留学生たちからグローバルな視点で課題研究に対する助言をもらえる大変貴重で有意義な機会となった。留学生との交流に関しては、1つのグループが3名の留学生から意見をもらえるようにするために、3回ごとにローテーションを行った。生徒たちは毎回ディスカッションの初めに、課題研究の進捗状況と次の取り組みを報告した。課題研究発表会の前に、その内容を留学生の前で披露し、指導・助言を仰ぐグループもいた。課題研究を深化させる上で大変良い機会になった。

■日程・内容（予定を含む）

実施回	日程	内容
1	8月19日（金）	岡山大学留学生による自国紹介と生徒による質疑
2	9月16日（金）	ステージ1, 第1回 課題研究を紹介し、質疑対応・意見交換・助言
3	10月21日（金）	ステージ1, 第2回 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言
4	11月4日（金）	ステージ1, 第3回 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言
5	11月11日（金）	ステージ2, 第1回 課題研究を紹介し、質疑対応・意見交換
6	12月9日（金）	ステージ2, 第2回 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言
7	12月16日（金）	ステージ2, 第3回 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言
8	1月13日（金）	ステージ3, 第1回（延期） 課題研究を紹介し、質疑対応・意見交換
9	1月20日（月）	ステージ3, 第2回（延期） 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言
10	2月3日（月）	ステージ3, 第3回（延期） 課題研究の変更・取り組みに対する意見・助言



(2) - 2 各種校外への講義への参加

・様々な外部講義への参加

今年度は岡山大学 SDGs アンバサダーとして35名の国際塾生がオンライン等を通じて行われる各種イベント、講演会、ディスカッションに参加した。これに加え、サステナブルブランド国際会議岡山ブロック大会、JUEMUN 2022 Japan University English Model United Nations、笹川平和財団スカラシップ説明会、子どもオンライン国際交流（富川市）、高校生のためのSDGs@HANDAI、イングリッシュ・オン・キャンパス、INTERKIDS ESD Café URA 2022、Well-being セミナーなど多種多様なイベントに多くの国際塾生が積極的に参加した。どのイベントも第一線で活躍する専門家から直接学ぶことができ、具体的な課題を与えられ、それについて考え、発表するなど、受け身で聴講するだけでなく、自ら能動的に関わっていく中で社会の諸問題を自身の課題として考え、それらの機会を通じて考えたことを自分の言葉で発信する機会となった。6つの資質能力の向上に大きく貢献する内容であった。

(3) 「成果と課題」

(3) - 1 成果について

各種イベント・発表会ごとに回答してもらったアンケートやレポートの結果を見ると、今年度の多くの塾生が、各種イベント・発表会等を通じて幅広く深い教養を身に付けることができたという回答している。自分に取り組んでいる分野に関する知識はもちろん、課題研究の内容とは必ずしも直接リンクすることはなくとも、自身の興味や関心に応じて様々な情報収集、研修の機会を利用する中で、新たな教養を身に付けることができた。また、校内外をはじめ、他者との協働を通して自他を尊重しながらも主体的に行動し、リーダーシップやフォロワーシップを養うことができたという報告も、複数の行事を通じて挙げられている。積極的に他者と関わったり、人前で自分の意見を発信したりするのが苦手な生徒も、立場や考え方の異なる多くの人々と一つの課題

に協力してアプローチしていく中で、自分の役割を見出し、その環境に自然と参画していくことができたと述べている。他者とかかわっていく中で、社会で問題になっている課題を見つけ、複数の情報をもとに解決策を導いていく力や社会的事象に対して新たな価値を創造する力を身に付けることができたと報告する塾生も多い。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で様々な行事が形を変えて実施される中でも、継続的な情報発信を行い、活動を絶やさないようにした成果が表れているのではないかと考える。また、Classroom を通じて情報発信や担当教員とのやりとりをすることで、時間や場所の制約を受けることなく密度の高いやりとりを行うことができ、手厚い指導につなげることができた。これに加え、今年度は24件の発表会・セミナー・イベントにのべ130名を越える国際塾生が参加し、学校での活動だけでは得られない経験や刺激を得ることができた。グローバル合宿での貴重な体験を始め、多くの外部の講義への参加等が功を成したと考えられる。さらに、今年度は校内外において昨年度よりも多くの発表の機会を与えることができ、それに合わせて研究を進め、グループで発表の整合性を確認し、発表からのフィードバックを得て、内省し、研究を深めるといった良いサイクルを作ることができたことも6つの資質能力の向上に貢献できた。社会的な問題について自分のこととして考える傾向も見受けられ、どの塾生も社会貢献の意識を身につけることができたと言えることも今年度の大きな成果といえる。

(3) - 2 課題について

国際塾生に対して研究を行う際、安易に校内でのアンケートやインタビュー等に頼るのではなく、信憑性のあるデータを複数集め、根拠をしっかりと示すことのできる論理的説得力のある研究を行うこと、データの出典を確認し、複数の情報から多角的な視点で情報分析を行うことを指導してきた。論文の検索の仕方や海外の文献の探し方についても指導する機会を設け、自分たちが考えた仮説や結論とは相反する結果が得られたとしても、それらに真摯に向き合うことの重要性を伝えてきた。そのため、インターネットや文献からのデータを使う際、情報源を確認しながら複数の情報を突き合わせて研究に生かしていくことができている。

今後の課題としては、フィールドワークやインタビュー、実験等の外部機関と連携した研究が十分にできていないため、必要に応じてオンライン等も効果的に活用しながら研究の糸口を探っていく必要がある。また、自分たちで作成した成果物や分析した結果を、学校内で完結させるだけではなく、専門家のもとに持って行き、評価や指導・助言を受けるといった取り組みもこれまではあまり行うことができていないため、実践していく必要がある。また、情報を分析する場面で、様々な分析方法のうち、どの方法を用いて分析を進めれば良いのかが分からず、苦戦している様子が見られたり、せっかく収集した情報をうまく分析したりことができずに、自身の課題研究に十分に活かすことができていない場合もあった。今後は分析方法について指導する時間を拡充し、実践や演習等を通じて適切な分析方法を身につけさせていく必要がある。